

## 路肩盛土施工時の路床面の品質確保

宮城県土木施工管理技士会  
 福田道路株式会社  
 東北支店 工事課

野原茂生  
 Shigeo Nohara

## 1. 適用工種

舗装工	
施工延長	L = 915m
路肩盛土	V = 519m <sup>3</sup>
路肩延長	L = 1,830m
下層路盤工	A = 7,600m <sup>2</sup>
上層路盤工	A = 7,600m <sup>2</sup>
表層工	A = 7,420m <sup>2</sup>

先行して路肩盛土を施工する。

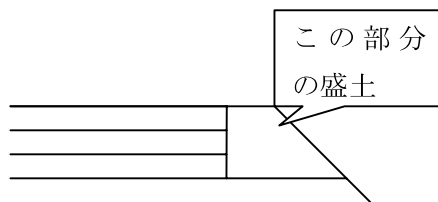


図-1

## 2. 改善提案

下層路盤施工前に先行して路肩盛土を施工する時、縦断勾配が無く端部に水が溜り路床を傷めてしまう可能性があり、この水を排水することに着目した。

## 3. 従来工法の問題点

下層路盤工→上層路盤工→表層工→路肩盛土の順番で施工していたが、路盤の端部が逃げてしまい密度が得られない。又表層工完了後の施工であると、汚れ等が目立つなどの問題点があった。

## 4. 工夫・改善点

路肩盛土→下層路盤工→上層路盤工→表層工の順番で施工し、先工で路肩盛土をした際の排水を工夫した。横断勾配が2%ある為、水は両端部に集まるので、その排水部にドレーン管を設置した。

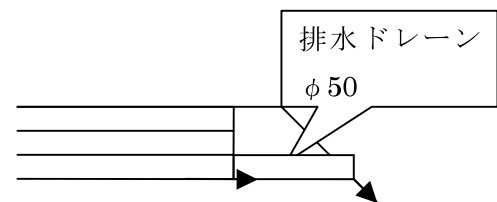


図-2

## 5. 効果

20mに1箇所割合で端部に有孔管を設置しました。(写真-1) これにより、床面の品質確保及び下層路盤工・上層路盤工施工時の排水に効果がありました。又端部の転圧も碎石が路肩にこぼれずに適正な密度が得られた。

施工が6月の梅雨時期と重なり、路盤工が降雨により過含水になってしまう恐れがあったが、排水管の設置により施工がスムーズに進んだ。



写真-1

## 6. 適用条件

施工延長が40m以上で、路床の排水が悪く、路肩盛土の先工施工が可能な現場。

路床工から上の部分の施工の現場ほぼすべての現場に施工可能だと思います。

## 7. 採用時の留意点

路肩盛土を施工した後、人力で排水管を施工しないと管がつぶれてしまう可能性がある、開口部はキャップをして土砂の流入を防ぐ、又水勾配に注意して施工しないと水の溜まる恐れあります。